
おみやげ買ってきたよ

誠次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おみやげ買ってきたよ

【Nコード】

N5721F

【作者名】

誠次郎

【あらすじ】

お父さんとコーギーのナナちゃんと王将におみやげを買いに行きたよ！

王将に5歳くらいの男の子が、お父さんに連れられてやってきました。

「パパ、おみやげなんにするの」

青い洋服を来た男の子は顔を上げて黒い大きな目をキラキラさせていました。

対応したのは、まだお店に入って1週間も経たない新人の女の子でした。

店の女の子はお店のエプロンをつけてましたが、おどおどしてて衣装が似合っていないようでした。

「餃子3人前と八宝菜下さい」

お父さんが、おみやげの注文をしました。

「は、はい、餃子3人前と、え〜と八宝菜で、よろしいでしょうか」
店の女の子は自信なさそうに内気な声で答えました。

「はい、そうです」

男の子はお店の入り口で楽しそうにはしゃいでました。

他のお客さんの迷惑になりそうだったので、お父さんは注文し終えると、

男の子の手を引っ張って

「ほら、ここにメニューがあるよ。読んでみてごらん」
と優しく言いつけました。

王将は中華料理のお店。

難しい漢字がいっぱい並んでいます。男の子にはまだ読めない字がたくさん。

そこで男の子はメニューのはしっこに書いてあった文字を、
大きな声で言い始めました。

「いらっしゃいませー!」

「ありがとう、ありがとうございます」

男の子は手をつないだお父さんの顔と、お店の女の子の顔を両方交互にみながら

お店の挨拶をひとつずつはつきりと読み上げてました。

お店の女の子は男の子の元気な声に驚きながら、男の子の可愛い仕草に、

顔を赤くしながらうんうんとうなずいてました。

「どちらに、な、なさいますか」

「いち、（お父さん、これなんて読むの？）一人前でよろしいでしょうか」

そのうち店内にいたおばさんたちも声に気づいて、入り口の方を一齐に振り向きました。

「あら、可愛いー！」と黄色い歓声をあげました。

数分後、女の子はおみやげを受け取ると、元気に店の奥から出てきました。

男の子におみやげを渡そうと、かがみました。

「どうぞ。また、来てくださいね」

つていうと、男の子は、

「うん、ありがとう！バイバイ！！」

と元気いっぱい返事をしました。

お父さんは男の子の手をしっかりと握りしめ、女の子には軽く会釈して、

お店を後にしました。

外はもう暗く、夜の風が湿気とともに頬をなでていきます。

お店の外にはコーギー犬の小さな子が待ってました。

お父さんと子供が出てくるとくるくると走り回って、大きくしっぽを振って喜んでました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5721f/>

おみやげ買ってきたよ

2010年12月12日23時39分発行